Daytona PotteringBike owner’s manual



電動アシスト自転車共通取扱説明書

- ご使用いただく前に本書をお読みいただき、十分に理解した上で走行してください。
- この自転車は一般道路用として設計されています。不整地での走行、競技での使用などはしないでください。
- 本書をお読みいただいた後、大切に保管していただき、本製品を他の人に譲渡される場合は、本書も一緒にお渡しください。
- イラストは代表車種を掲載しています。

目次

1.0	はじめに	1
2.0	安全上のご注意	3
3.0	本製品について	17
4.0	本製品について理解する	23
5.0	バッテリーの使用方法、保管、廃棄	30
6.0	走行前の点検	37
7.0	定期点検・整備	39
8.0	お手入れ	44
9.0	トラブルシューティング	46
10.0	技術情報	48
11.0	保証規定	49
12.0	オーナー登録	50
13.0	廃棄	51
14.0	その他	51

1.0　はじめに

Daytona PotteringBike（デイトナ ポタリングバイク）をお買い上げいただきありがとうございます。

※ 以降このマニュアルでは本製品をポタリングバイクと呼びます。

ご両親、保護者の方への注意
お子様が本製品を使用するとき、保護者としてお子様の行動と安全に責任があることをご理解いただき以下の点を確認した上で使用させてください。

- 本製品がお子様の体格や用途に適していること。
- 本製品が正しく機能し安全に使用できる状態であること。
- 本製品の安全な使用方法について理解していること。
- お住まいの地域の自動車、自転車、交通に関する法律や規則、条例を知り、理解し、順守すること。
- 安全で責任のある走行が出来ること。
- お子様が本製品を使用する前に、あなたとお子様がこのマニュアルを読み、警告と本製品の機能および使用手順を確認し、理解していること。

取扱説明書について
※ 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用したことによる事故や損害について、当社では一切責任は負いません。
※ 本書はすべての条件における本製品の安全な使用について記述しているわけではありません。
※ 本書で使用している写真、イラストは商品の仕様変更等により、実際の形状と一部異なる場合があります。
※ 本書についてご不明な点がございましたら、お気軽に株式会社デイトナまでお問い合わせください。

1.1　シンボルマーク

本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

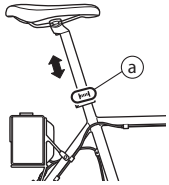
⚠警告	要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注意	要件を満たさずに使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要点	正しい操作のしかたや、点検整備上のポイントを示してあります。
 実施	表記の行為を強制したり、指示内容を告げるものです。
 禁止　水ぬれ禁止　接触禁止　分解禁止	表記の禁止行為を告げるものです。

2.0　安全上のご注意

安全に関する記述を、乗車する前にお読みいただき、十分に理解した上で走行してください。
また、正規販売店による取扱上の注意などの説明を受け、安全にお乗りください。

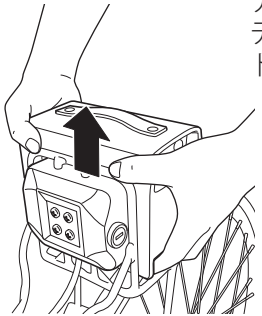
2.1　本製品を安全に使用するために

⚠警告	
禁止 実施	機器に異常を感じる、異音がするなど何らかの不具合がある場合は、ただちに使用を中止し販売店で点検を受けてください。
禁止	シートポストの、差し込み限界マークⓐが見える状態で乗らないでください。シートポストの破損や、転倒によるけがのおそれがあります。



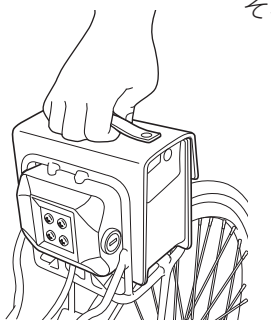
⚠警告

実施



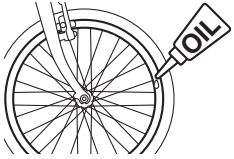
バッテリーを外す際は、イラストのように親指をバッテリーのステー側に掛け、その他の指をバッテリー底部で支えて、上にスライドするように外してください。

禁止



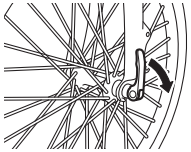
レザーバッグの取っ手を掴んで持ち上げないでください。破損のおそれがあります。

禁止



ブレーキの制動面に注油しないでください。ブレーキが効かなくなって転倒や追突によるけがのおそれがあります。

実施



点検、調整後または車輪の脱着後は、締め付けを確認してください。車輪などが外れて転倒し、けがをするおそれがあります。

⚠警告

禁止



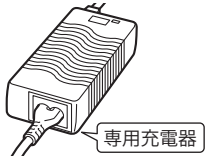
バッテリーを火中に入れたり、加熱しないでください。液漏れ、異常発熱、破裂のおそれがあります。

禁止



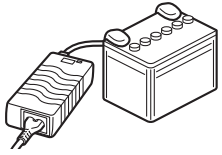
ケースの破損したバッテリーを使用しないでください。漏れた液体が目に入ると失明のおそれがあります。

実施



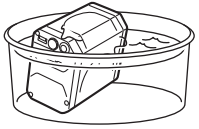
バッテリーの充電は、専用の充電器及び付属の電源コードを使用してください。他の充電器を使用すると、発火、異常発熱、破損のおそれがあります。

禁止



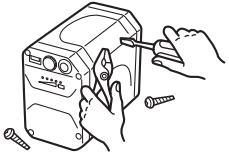
充電器は、本製品専用のバッテリー以外の充電はしないでください。異常発熱、発火の原因や感電のおそれがあります。

水ぬれ禁止



バッテリーを水没させないでください。異常発熱、発火、破裂のおそれがあります。

分解禁止



バッテリーを改造、分解しないでください。液漏れ、異常発熱、破裂の原因や感電のおそれがあります。

⚠警告

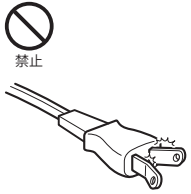


バッテリーの接続端子を、金属などでショートさせないでください。液漏れ、異常発熱、破裂の原因や感電のおそれがあります。



専用のバッテリーのため、他の電気製品に接続しないでください。液漏れ、異常発熱、破裂のおそれがあります。

USB 端子への接続は、接続する機器の指示に従ってください。



電源コードや電源プラグが破損している充電器は使用しないでください。異常発熱、発火の原因や感電のおそれがあります。



湿気の多い場所や、水に濡れている場所では、充電しないでください。異常発熱、発火の原因や感電のおそれがあります。



充電中はカバーをかけたり、充電器の上に物を置かないでください。発熱による火災のおそれがあります。



充電器の改造はしないでください。異常発熱、発火の原因や感電のおそれがあります。

⚠警告

禁止



幼児の手の届くところでは、充電しないでください。けがや感電のおそれがあります。

禁止



濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電のおそれがあります。

実施

電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。発熱による火災や感電のおそれがあります。

禁止

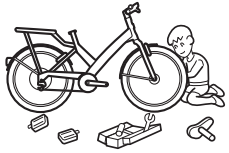
コンセントや配線機器の定格を超えての使用はしないでください。発熱による火災のおそれがあります。

実施



リチウムイオンバッテリーは、航空機内への持込・荷物としての預け入れが制限されることがあります。
航空会社により判断が違う事もありますので、ご利用の際には、事前に航空会社へご確認ください。

分解禁止



改造や分解はしないでください。部品の破損によるけがのおそれがあります。

2.2　本製品を安全に乗るために

⚠警告	
禁止  二人乗りはしないでください。転倒や落車などによるけがのおそれがあります。 幼児用座席を取り付けても二人乗りは出来ません。 本製品は二人乗りのための設計をしておりません。 フレームを破損し重大な事故につながるおそれがあります。	禁止  自転車専用道路など並進が認められている道路以外では並進しないでください。自動車、歩行者、他の自転車と接触し事故につながるおそれがあります。
禁止  体調が優れないときやかぜ薬服用時は乗らないでください。体の運動機能が低下し、転倒や接触事故につながるおそれがあります。 飲酒運転は法律により禁止されています	禁止  夜間やトンネル内、視界の悪いところでは、無灯火で乗らないでください。見通しがきかなくて、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

⚠警告

禁止



ヘッドフォンを使用しながらの運転や、携帯電話を操作しながら乗らないでください。バランスを崩したり前方不注意になり、転倒や接触事故につながるおそれがあります。また、各地域の規則や条例により罰則を受ける場合があります。

禁止



積載条件を超える荷物を積まないでください。バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走をつけ、サドルにまたがる乗り方）をしないでください。アシスト機能が作動し、車体だけが前に進み、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

禁止



本製品に慣れないうちは、車通りや人通りが多い場所で乗らないでください。転倒や接触事故につながるおそれがあります。

禁止



停車中は前後のブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないでください。アシスト機能が作動し、不用意に前に進み、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

禁止



発進時に、ペダルを強く踏み込み過ぎないでください。急発進により、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

⚠警告

禁止



車輪やチェーンに巻き込まれやすい服装で乗らないでください。転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



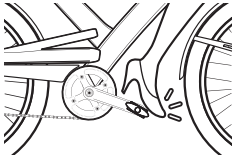
手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないでの運転はしないでください。荷物や紐が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



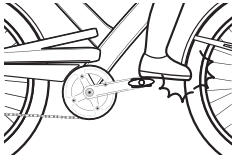
乱暴な運転はしないでください。転倒や接触事故につながるおそれがあります。

禁止



滑りやすい靴や、かかとの高い靴を履いて乗らないでください。足がペダルから外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



土踏まずや、かかとでペダルを踏まないでください。カーブなどでつま先が前車輪と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



滑りやすいところ（積雪や凍結した道、鉄板の上やぬかるみなど）では乗らないでください。スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

⚠警告

禁止



凹凸の激しいところ（歩道の段差や溝など）では乗らないでください。フレームや車輪の損傷や、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



片側だけのブレーキ操作はしないでください。スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



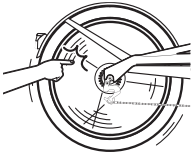
雨、風、雪のひどいときは乗らないでください。バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



走行以外（踏み台代わりなど）に使わないでください。転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



回転部分に手や足、物などを近づけないでください。また子供を近づけさせないでください。車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

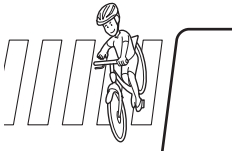
禁止



カーブで曲がる側のペダルを下げないでください。ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠警告

禁止



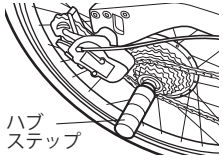
合図をするとき以外は、ハンドルから手を離さないでください。バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



傘やステッキ、釣り竿などを車体に差し込んだり、つり下げたりして乗らないでください。他の人との接触事故や、転倒によるけがのおそれがあります。

禁止



ハブステップなど、歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を取り付けないでください。歩行者に接触し、けがをさせるおそれがあります。また突起物が自動車などに接触し事故につながるおそれがあります。

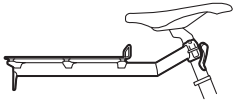
禁止



スポークの間に固形物（ボールなど）を入れて走らないでください。車輪に巻き込まれ、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠警告

禁止



シートポストに直接クランプするタイプのリアキャリアは使用しないでください。
車両の重量バランスが変化し、シートポスト又はフレームを破損する可能性があります。

禁止



ブレーキディスクはその性質上鋭利な箇所があります。
車輪が回転しているときには絶対にブレーキディスクを触らないでください。
指を切断するなど重傷に至るおそれがあります。特に小さなお子様が手を入れないよう注意してください。

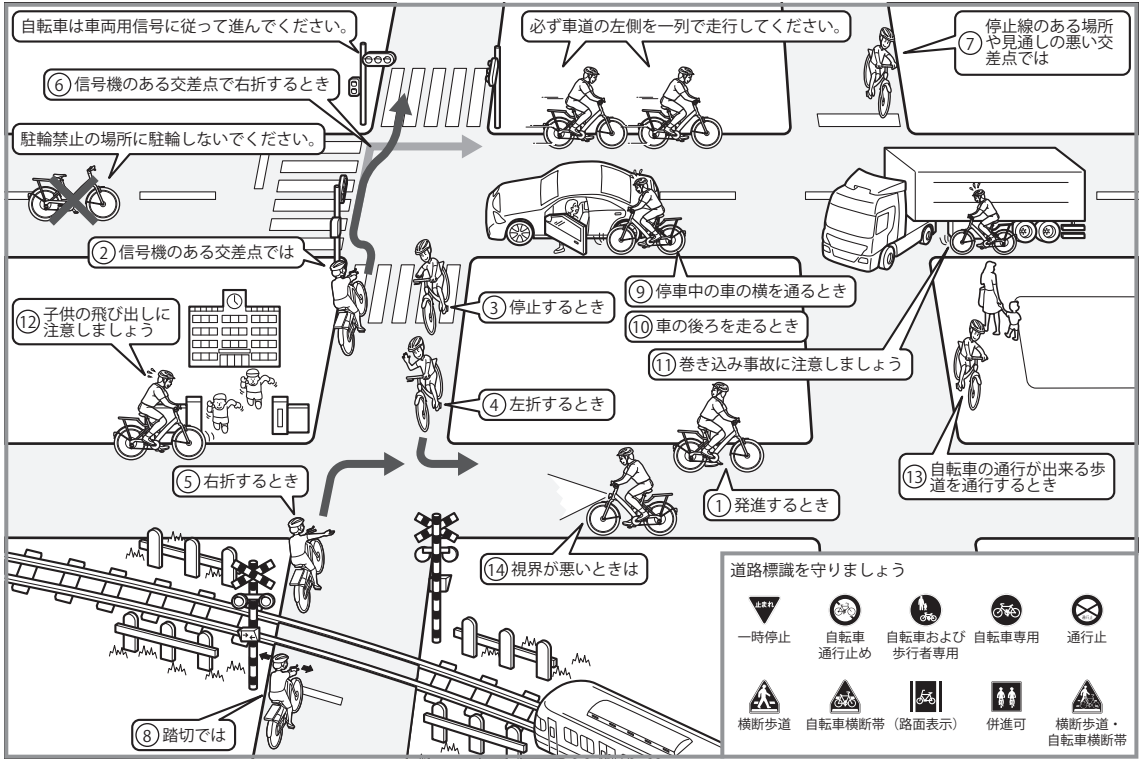
禁止



ブレーキを強くかけると車輪がロックして、コントロールを失い転倒し、死亡または重傷に至るおそれがあります。
特にディスクブレーキは制動力が強く、車輪がロックしやすい特性があります。

2.3　道路を走るときのルール

安全に乗るために、交通ルールを必ず守りましょう。
ヘルメットの着用は努力義務です。乗車時はヘルメットを着用してください。



① **発進するとき**
前後左右の安全を確かめて、道路の左側から発進してください。

② **信号機のある交差点では**
車両用信号に従って進んでください。「歩行者・自転車専用」と表示されている信号機のある場合は、その信号に従ってください。

③ **停止するとき**
右腕を斜め下にして合図をしましょう。

④ **左折するとき**
右腕のひじを直角に上に曲げて合図をしましょう。また、速度を落としてから曲がってください。

⑤ **右折するとき**
右腕を水平に出し手のひらを下にして合図をして、道路の向こう側まで進んでから右折してください。

⑥ **信号機のある交差点で右折するとき**
正面の信号が青になったら向こう側までわたり、一旦止まります。次に右側の信号が青になってから進んでください。（2 段階右折）

⑦ **停止線のある場所や見通しの悪い交差点では**
一旦停止して左右の安全を確認してください。

⑧ **踏切では**
一旦停止して左右の安全を確認してください。

⑨ **停車中の車の横を通るとき**
急にドアが開いたり、車の陰から急に人が出てくることがありますので十分注意してください。

⑩ **車の後ろを走るとき**
車が急に止まったり、急に曲がったり、前方が見えにくかったりすることがありますので十分注意してください。また、安全な車間距離を保ってください。

⑪ **巻き込み事故に注意しましょう**
左折する車のすぐ横は、巻き込まれるおそれがありますので注意してください。特に大型車には十分注意してください。

⑫ **子供の飛び出しに注意しましょう**
公園や学校の近くでは子供の飛び出しに十分注意してください。

⑬ **自転車の通行が出来る歩道を通行するとき**
車道寄りまたは「通行すべき部分」が示されている場合はその部分を徐行してください。歩行者の迷惑となる場合は自転車から降りて、自転車を押して歩きましょう。

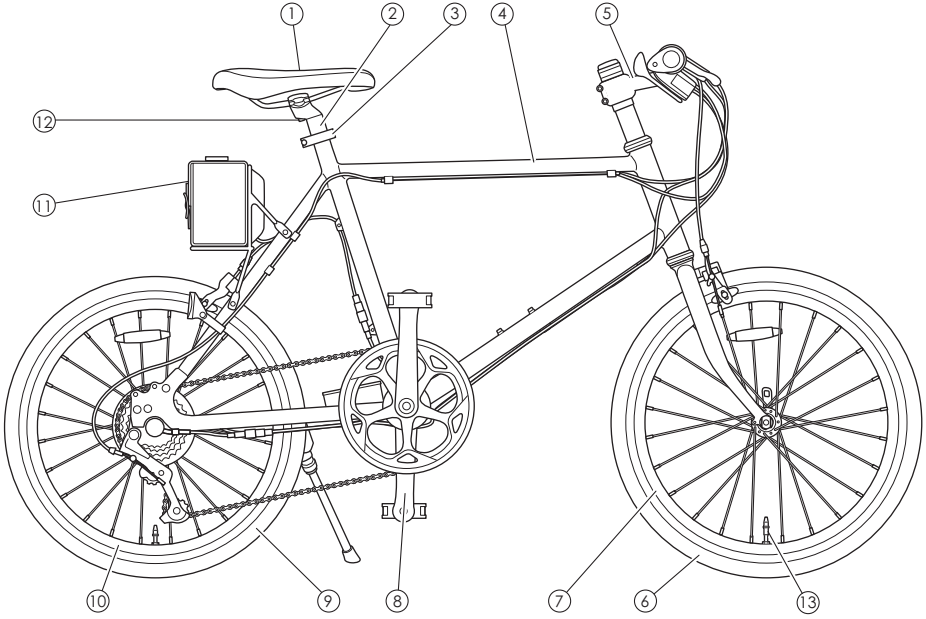
⑭ **視界が悪いときは**
必ず前照灯をつけてください。また夕暮れどきは、周囲が完全に暗くなる前に早めにつけてください。

要点

前照灯を標準装備していない車両は、市販の前照灯を別途お求めください。

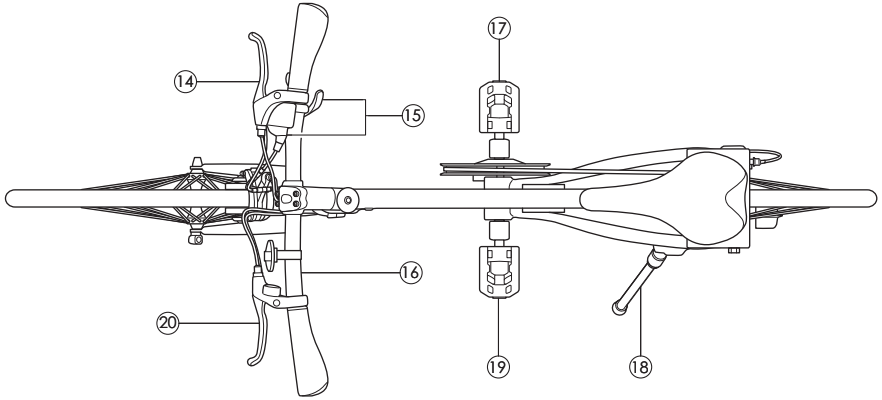
3.0　本製品について

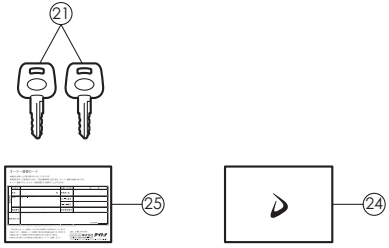
3.1　構成部品

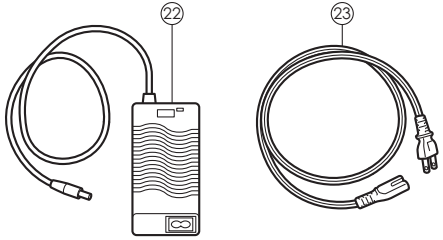


①	サドル	(P20、21)
②	シートポスト	(P20)
③	シートポスト クイックリリース	(P20)
④	フレーム	
⑤	ハンドルバーステム	(P22)
⑥	フロントタイヤ	(P38~43)
⑦	フロントリム	(P39)
⑧	ペダル・クランク	(P37)
⑨	リヤタイヤ	(P38、40)
⑩	リヤリム	(P39)
⑪	バッテリー	(P25、26、29~36、38)
⑫	サドルクランプボルト	(P21)
⑬	バルブアダプター （英式へ変換）	(P38)

※イラストは代表車種を使用しています。







⑭ 右ブレーキレバー（フロントブレーキを作動） （P19、24、37）
⑮ ギヤシフター （P27）
⑯ ハンドルバー （P22）
⑰ 右ペダル （P37）
⑱ スタンド （P24）
⑲ 左ペダル （P37）
⑳ 左ブレーキレバー（リヤブレーキを作動） （P19、24、37）
㉑ バッテリーロックのキー（2 本） （P35）
㉒ 充電器 （P30~34）
㉓ 電源コード （P31）
㉔ 取扱説明書（本書）
㉕ オーナー登録カード （P50）

3.2　部品の交換やアクセサリーの取り付け

タイヤ交換や、部品、アクセサリーの取り付けは、その部品やアクセサリーが、本製品に適合していることを正規代理店または株式会社デイトナに確認してから作業を行ってください。

部品やアクセサリーの取り付けは、付属の説明書をよく読んでから作業を行ってください。本書と部品やアクセサリーの指示が異なる場合は、正規販売店または株式会社デイトナまでお問い合わせください。

⚠警告

- すべての機械部品と同様に、自転車は摩耗したり大きなストレスを受けています。異なる材質や部品は、異なる摩耗やストレス疲労を示す場合があります。部品の設計寿命を過ぎると、突然の故障による転倒や事故により死亡または重傷に至るおそれがあります。フレーム、フォーク、ハンドルのような大きなストレスを受ける部品に、亀裂、傷、変色がある場合は、その部品が寿命に達していることを示しています。その場合はすぐに正規販売店で損傷部品を交換してください。
- 交換する部品やアクセサリーの互換性、組み付けが正しく出来ていること、正しく作動することを確認してください。そして部品やアクセサリーの定期点検を実施してください。もし行わない場合は、故障による事故や転倒により死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠注意

- 純正品以外の部品や交換部品を使用すると、本製品の安全性を損ない、保証を受けられなくなる可能性があります。
- 本製品への適合性、信頼性、安全性を試験していない可能性がある部品の交換や、アクセサリーの取り付けについては、使用者の自己責任となります。

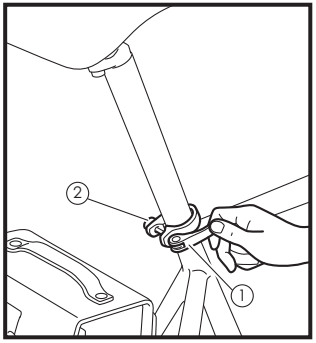
3.3　ブレーキレバーの調整

正しい姿勢でブレーキをかけることができない場合は、正規販売店でブレーキレバー角度の調整を受けてください。
または、以下の説明に従ってブレーキレバー角度を調整してください。

1. ブレーキレバーの下にあるボルトを適切なサイズの六角レンチでゆるめます。
2. 適切な角度に調整します。
3. ボルトを締め、ブレーキレバーを確実に固定します。ブレーキ自体の調整が必要な場合は、正規販売店で必要な調整を受けてください。

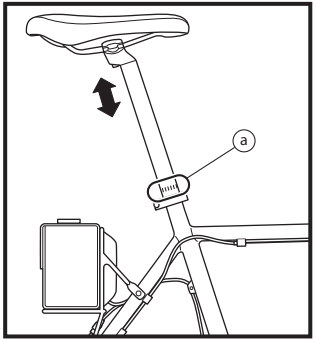
3.4　サドル高さの調整

サドルの高さは、お客様の体格に合わせて調整する必要があります。走行前に正規販売店で調整を受けるか、以下の説明に従ってご自身でサドル高さを調整してください。



高さ調整

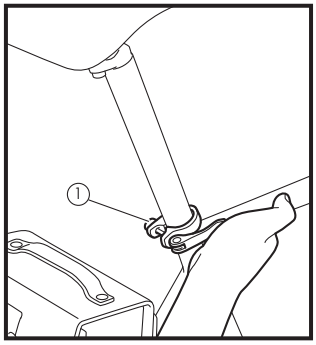
1. クイックリリースレバー①をシートポストから離れる方向に開き、シートポストクイックリリース②をゆるめます。



2. サドルを希望の高さに調整します。サドルの高さは、限界マーク ⓐ までの間で調整してください。

⚠注意

シートポストの、差し込み限界マーク ⓐ が見える状態で乗らないでください。シートポストの破損や、転倒によるけがのおそれがあります。



3. フレームを手でしっかりと握り、レバーが完全に閉じるまでフレーム側に押します。正しく調整されたレバーを閉じるために必要な力の目安は、手のひらにレバーの跡がつく程度が適切です。十分な力で閉じられたレバーは、逆の手順で再び開かない限り簡単には開きません。簡単に開いてしまう場合は、レバーを開いて調整ナットを 180˚締め込み、レバーを閉じて確認してください。それでも正しく閉じられない場合は、さらに調整ナット①を調整してください。

⚠警告

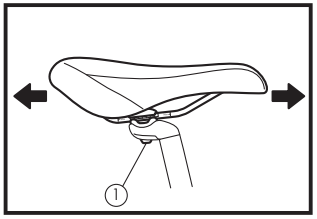
- シートポストが確実に固定されていないと転倒などにより死亡または重傷に至るおそれがあります。
- クイックリリースレバーは確実に閉じ、レバーが突き出たままにしないでください。レバーが突き出たまま走行すると転倒などにより死亡または重傷に至るおそれがあります。

3.5　サドルの調整

サドルは、お客様の体格に合わせて前後の位置を調整できます。また、お好みの乗り方に応じてサドルの角度を調整できます。以下の説明に従ってサドルを調整してください。

前後の調整

1. サドルクランプボルト①（サドルクランプとサドルレールを固定するボルト）をゆるめます。

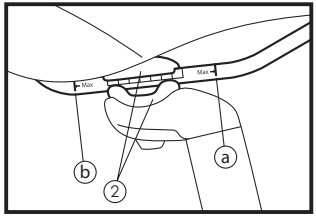


2. 前後の位置を調整します。

⚠警告

サドルの前後位置を調整するとき、サドルクランプ②がサドルレールにある前後のマークⓐ、ⓑを超えないように調整してください。適切な範囲で調整されていないとシートポストやフレームに不適切に力が加わり、シートポストやフレームが破損し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

3. 角度を調整します。



要点

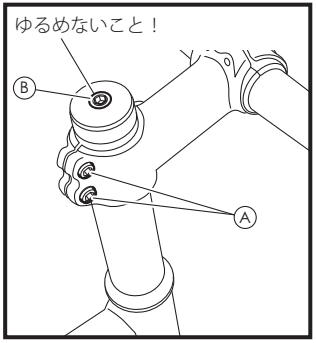
サドルの位置は、地面に対してサドル座面が水平になっている位置が基本です。水平を基準としてお好みの乗り方に応じてサドルの角度を調整してください。

4. サドルクランプボルト①を 22 Nm のトルクで締めます。

⚠警告

サドルが確実に固定されていないとサドルの脱落による転倒などにより死亡または重傷に至るおそれがあります。

3.6　ハンドル向きの調整



1. ボルトⒶを六角レンチでゆるめます。
2. ハンドルバーを正しい角度にします。
3. ボルトⒶを六角レンチで締めます。

ボルトⒶ： 5 Nm

⚠警告

ハンドルバーステムを正しく固定しないと、転倒などにより死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠注意

本製品はアヘッドステムを採用しています。上部のボルトⒷは 1 ～ 2 Nm の荷重がかけられており、ハンドルバーステムを調整するものではありません。ボルトⒷを締めようとすると、ヘッドセットベアリングを損傷するおそれがありますので、ボルトⒷはむやみにさわらないでください。

ステアリングに遊びがないこと、ステアリングがスムーズに動くことを確認してください。

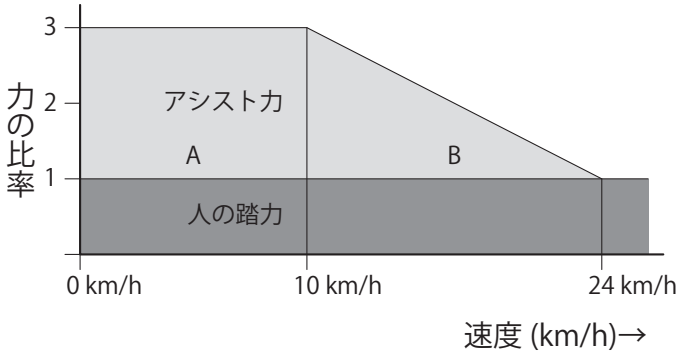
ヘッドセットベアリングの調整に関する情報は、正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

4.0　本製品について理解する

不明な点がある場合は、初回の走行までに正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

4.1　システムの概要

本製品は純粋なペダルアシスト機能を採用しており、モーターは人がペダルを漕いでいるときにだけアシストを行います。そのため、ご自身の力で動く感覚を得ながらも、電動モーターによるアシストの快適性を感じることができます。
本製品はトルクセンサーを装備しており、ペダルを漕ぎ始めるとすぐにモーターがペダリングをアシストする駆動力が発生します。これにより、快適な走行を実現します。



法令によりアシストモーター出力は以下のように定められています。

1. 24 km/h 未満の速度で、自転車を走行させる場合において、人の力に対する原動機を用いて人の力をアシストする力の比率が、下記の A または B に掲げる速度の区分に応じ、それぞれ A または B に定める数値以下であること。

区分	速度	人の力をアシストする力の比率
A	10 km/h 未満	2
B	10 km/h 以上 24 km/h 未満	※力の比率＝$2-\frac{(速度-10)}{7}$

2. 24 km/h 以上の速度で、自転車を走行させる場合において、原動機を用いて人の力をアシストする力が加わらないこと。

4.2　初めての乗車

1. ヘルメットを着用し、自動車や他の自転車、障害物、危険物などがない安全な場所を選んでください。
2. バッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
3. システムの電源を入れます。
4. スタンドを上げて走行出来る状態にします。

⚠ 注意

- スタンドで支えられている状態で座らないでください。スタンドや、フレームが損傷するおそれがあります。
- スタンドは特に壊れやすいので、車体以外の加重が加わった状態で使用しないでください。

5. ペダルを漕いでアシストモーターの稼働を確認してください。
6. 低速でブレーキの機能を試してください。右ブレーキレバーでフロントブレーキが、左ブレーキレバーでリアブレーキが作動します。

要点

ブレーキレバーにはパワーカットオフスイッチが内蔵されています。ブレーキをかけているときは、モーターへの電源供給がオフになりペダルアシスト機能は作動しません。

7. 車両のハンドリングや反応を確認してください。

4.3 制動力の確認

ディスクブレーキはリムブレーキに比べ軽い操作力で強力な制動力を得る事ができます。この制動力に慣れるまでは安全な場所で繰り返しブレーキ操作をおこない、ブレーキの強さに慣れてください。

4.4 後方への注意

強いブレーキをかけた場合、後続車両との制動力の違いにより追突事故につながる場合があります。後続車の車間距離が近い場合などは特に注意してください。

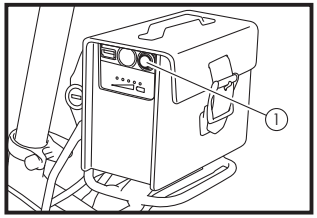
⚠ 警告

ブレーキを強くかけると車輪がロックして、コントロールを失い転倒し、死亡または重傷に至るおそれがあります。
特にディスクブレーキは制動力が強く、車輪がロックしやすい特性があります。

4.5　電源の入れ方

電源ボタンを使って、電源をオン／オフする

- バッテリーの電源ボタン①を押すと、システムが起動します。
- バッテリーの電源ボタン①をもう一度押すと、システムを終了することができます。



要点

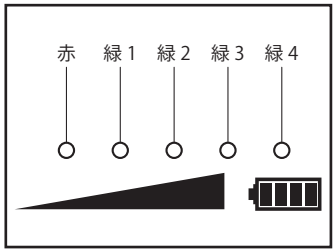
- 本製品のアシストレベルは調整できません。
- システムは約 11 分間放置しておくと、自動的に電源が切れます。

4.6　バッテリーの残量表示

LED 表示とバッテリーの残量

バッテリーに装備されているインジケーターランプで、バッテリーの残量を確認することができます。バッテリーの残量に応じて、点灯・点滅の仕方が変わります。インジケーターランプの表示パターンは以下になります。

バッテリー残量	LED 表示
0%	赤色 LED が点灯、緑 2LED が点滅し、4 秒ほどで消灯、電源が入らない場合はバッテリー残量がかなり少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを充電してください。
1 ～ 10%	赤 LED のみが 3 回点滅後、3 秒休止を繰り返す
11 ～ 20%	赤 LED のみ点灯
21 ～ 40%	赤 – 緑 1 LED が点灯
41 ～ 60%	赤 – 緑 1– 緑 2 LED が点灯
61 ～ 80%	赤 – 緑 1– 緑 2– 緑 3 LED が点灯
81 ～ 100%	全ての LED が点灯



要点

赤色 LED が点灯、緑 2LED が点滅し、4 秒ほどで消灯、電源が入らない場合はバッテリー残量がかなり少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを充電してください。バッテリー残量があるのに赤色 LED が点灯、緑 2LED が点滅する場合は何らかのエラーを表示しています。バッテリーを車体から外した状態で 10 分ほど時間を置いてから再接続してください。エラー表示を繰り返す場合は正規販売店または株式会社デイトナまでお問い合わせください。

⚠注意

バッテリー残量が少ない状態でバッテリーを放置すると、バッテリーの寿命を縮めます。

USB の電力供給

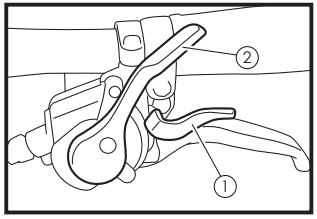
本製品に搭載されている USB ポートで、最大 2.1 A までの電力供給が可能です。

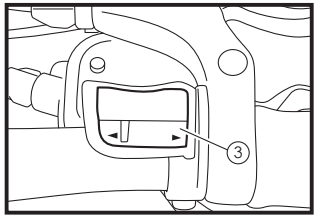
要点

機器の仕様によっては電力供給ができない場合があります。接続する機器の指示に従い、USB ポートからの電力をお使いください。

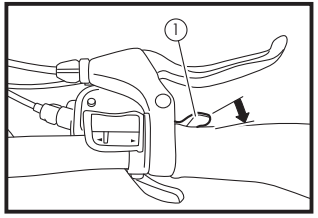
4.7　ギヤ

本製品は、外装変速機を装備しています。
ハンドルバー右側にある 2 つのシフトレバー①、②を操作して変速します。
一定のペースでペダルをこいだとき、走行条件にもっとも適したギヤを選択してください。選択しているギヤは、ギヤポジションインジケーター③で確認できます。
より速く走行するには（平坦路や下り坂）シフトレバー①でシフトアップ、ペダリングを楽にするには（上り坂にさしかかったとき）シフトレバー②でシフトダウンを行ってください。

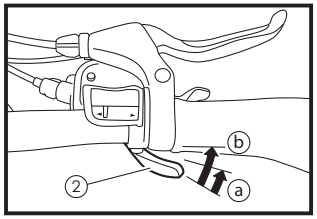




シフトアップするには
シフトレバー①を 1 回引くごとに 1 段ずつ大きなギヤから小さいギヤへ変速します。



シフトダウンするには
シフトレバー②を次の 2 つの方法で操作します。



1 段ずつ変速したい場合：
ⓐの位置まで 1 回押すごとに 1 段ずつ小さなギヤから大きなギヤへ変速します。

一度に複数段変速したい場合：
ⓑの位置まで押すと複数段変速します。

⚠警告

ギヤの変速中は、絶対にペダルを逆回転させないでください。チェーンがはずれてコントロールを失い、死亡または重傷、物的損害に至るおそれがあります。ギヤを変速する場合は、必ず一定のペースでペダルを正転させてください。

要点

ギヤは、モーターのアシスト量に関係なく変速可能です。

⚠注意

ペダル回転時に靴の一部が接触する場合があります。
バッテリー及びバッテリーステーの横部分及びスタンドのホルダー部分などが靴の形状によりクランク回転時に接触する場合があります。
ブーツなど底が厚く横に出ている靴は強く当たる可能性がありますのでご注意ください。

本製品に装備しているスタンドは、軽量化の為アルミ製の素材を使用しています。
車体を支えるには十分な強度がありますが、スタンドを立てた状態で車体に跨ったり、車体に荷物など車両以上の荷重がかかった場合、変形する可能性があります。
スタンドの取り扱いには十分ご注意ください。

4.8　アクセサリー

本製品は専用のアクセサリーをご用意しております。
アクセサリーについての詳細は、正規代理店または株式会社デイトナまでお問い合わせください。

4.9　アシスト距離

アシスト距離に影響する要因として、以下が挙げられます。

- バッテリーの充電状態
- 速度に適したギヤの使用
- タイヤの空気圧
- 前輪のホイールベアリングと両ブレーキ（ベアリングの回転が渋い場合やブレーキの引きずりがある場合はアシスト距離が短くなります）
- 乗る人の体重（体重が重いほど加速に必要なエネルギーは大きくなります）
- 走行速度と風の条件（強い向かい風に対して強くペダルを漕ぐとアシスト距離が短くなります）
- 地形（軟らかい地面や上り坂の走行は、より大きなパワーを消費します）
- 停止と発進の回数（静止状態から全力で発進するときが、バッテリーの電気を最も多く消費します）

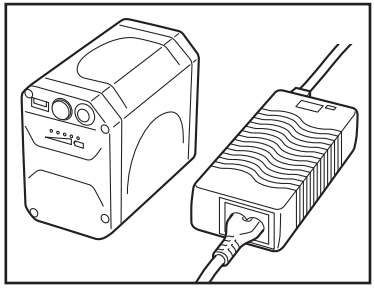
アシスト距離を伸ばすには

- 走行前にバッテリーを完全に充電してください。
- 定期的にタイヤの空気圧を点検し、前後のタイヤに指定空気圧まで空気を入れてください（P38 参照）。
- 定期的に点検し、ホイールベアリングが抵抗なく回転することを確認してください。
- 積載重量を最小限にしてください。
- チェーンとディレーラーの潤滑状態を維持してください。

要点

- アシストが不要なときは電源を切って走行するとさらに距離を伸ばすことができます。
- 電源のオン・オフは安全のため、停止状態で操作してください。

5.0 バッテリーの使用方法、保管、廃棄



5.1 バッテリーと充電器

⚠注意

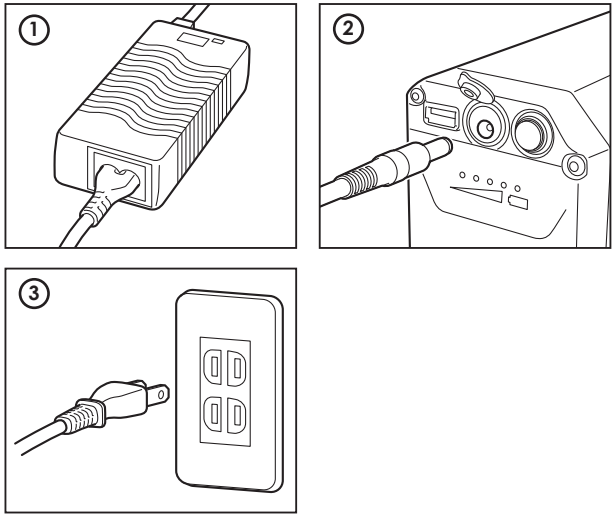
- バッテリーは必ず付属のもの、またはポタリングバイク純正交換品として提供しているものを使用してください。それ以外のバッテリーを使用すると、保証が受けられなくなります。また、電気系統およびモーターを損傷するおそれがあります。
- バッテリーを他の車両や機器で使用したり、強い衝撃や振動を与えたり、端子を短絡させたりしないでください。不適切に使用すると保証が受けられなくなります。
- バッテリーを高熱／火炎のそばで保管することや、日光に長時間当てないでください。不適切に使用すると保証が受けられなくなります。
- 充電器は専用のもの以外は使用しないでください。不適切に使用すると保証が受けられなくなります。
- 付属の充電器は屋内使用専用です。
- 水など液体との接触を避けてください。バッテリーまたは充電器、あらゆる接続部が濡れた場合は、すぐに充電器のプラグを抜いて、すべての機器を完全に乾かしてから使用してください。
- このバッテリーには、充電日時、電圧、気温、充電時間などを記憶する機能が付いています。詳しくは、正規販売店または株式会社デイトナまでお問い合わせください。

5.2　バッテリーの充電

初回使用の前に充電を行ってください。

1. 付属の電源コードを充電器に差し込みます。
2. コネクタをバッテリーに差し込み、充電器とバッテリーを接続します。
3. 電源コードを家庭用コンセント（AC100 V）に差し込みます。

※ 50Hz、60Hz 共に使用できます。



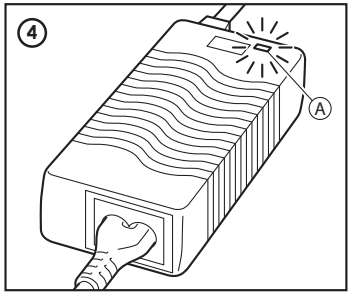
要点

- 販売店にて機能確認及びバッテリー性能保持のため初回充電を行っている場合があります。販売店にて充電が完了している場合はそのまま走行できます。
- バッテリーは車両積載状態、車両から取り外した状態のどちらでも充電することができます。
- 満充電状態のバッテリーを繰り返し充電すると劣化が早くなります。

⚠警告

屋外や水のかかる場所では充電を行わないでください。

4. 充電器の LED は以下の内容を示します。
   - 充電器のプラグをコンセントに差し込むと LED Ⓐが緑色に点灯します。
   - バッテリーを充電しているときは、LED Ⓐが赤色に点灯します。
   - バッテリーが完全に充電されると LED Ⓐが緑色に点灯します。
5. 充電中のバッテリーインジケーターは以下の表記をします。
   ① 左側から右側へ LED が流れるように点滅します。
   ② その後、現在の充電状況をバッテリー残量表示（P25）に従い表示します。
   - 上記①、②を交互に表示します。



要点

バッテリーインジケーターの表示は、充電開始後数秒〜数十秒経ってから表示されます。

6. 充電が完了したら（充電器の LED Ⓐが緑色に点灯、バッテリーの LED は全て消灯）、充電器のプラグをコンセントから抜き取り、充電ソケットからコネクタを抜いてバッテリーと充電器を切り離します。
7. これでバッテリーの使用準備は完了です。

⚠注意

- 充電器には電源スイッチがありません。充電が終わったら充電器のプラグをコンセントから抜き取り、充電ソケットからコネクタを抜いてバッテリーと充電器を切り離してください。
- テレビやラジオにノイズが発生する場合は、場所を移動して充電してください。

5.3　バッテリー充電と充電器

充電時間	**時間**
9.6 Ah バッテリー	6 ～ 7 時間

気温が 0℃よりも低い、または 40℃よりも高い場合は充電を行わないでください。可能な限りバッテリーの充電は室温で行ってください。
充電に最適な温度は約 15 ～ 25℃です。

バッテリーの保護
モーターコントローラーとバッテリーマネジメントシステム（BMS）は、バッテリーの電圧が規定値よりも低下すると、バッテリーを過放電による悪影響から保護するため、モーターへの電力供給を止めるように設計されています。

バッテリーの充電は、満充電時を除き充電状態とは関係なくいつでも行う事ができますが、充電回数とバッテリーの劣化には相関関係があり、満充電に近い状態で繰り返し充電すると劣化が早くなります。500 充放電サイクルにわたって容量の 70% を維持しますが、年数が経つとともに徐々に容量が低下します。
また、残量が少ない状態が長時間続きますと劣化が早まる特性もありますので、充電後の保管をお勧めします。容量が少なくなってくると、最大アシスト距離が少しずつ短くなります。アシスト距離が許容できないレベルまで短くなったときは、正規販売店にて交換用バッテリーをお買い求めください。

⚠注意

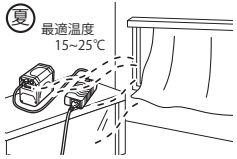
電圧低下によって電力供給が止まった場合は、**3 日以内に**付属の充電器とバッテリーを接続して充電を行ってください。完全に放電したバッテリーを満充電するには 5 ～ 7 時間かかります。

バッテリーまたはその使用方法についての疑問がある場合は、正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

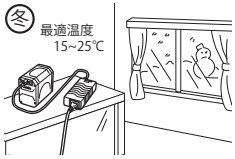
⚠注意

BMS によってバッテリーからの電力供給が止められた場合、そのバッテリーに残っている電力の使用を試みることは絶対にしないでください。過放電によりバッテリーが損傷します。

・ 充電に適した場所

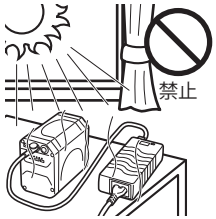


日陰ですずしく、風通しのよい場所



夜間でも 0 ℃以下にならないあたたかな場所

・ 充電に適さない場所



直射日光が当たる場所での充電



ストーブやこたつなどの暖房器具の近くでの充電



冬の屋外、または物置などの寒い場所



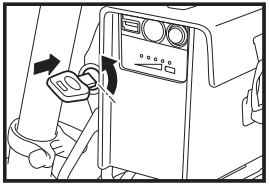
雨の当たる場所や砂埃の多い野外など



充電器やバッテリーの上に物（特に布団など）を乗せないでください。

5.4　バッテリーの取り外し／取り付け

バッテリーの取り外し



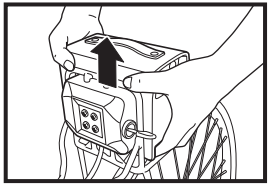
1. バッテリーロックのキーを差し込み、反時計方向に回してロックを解除します。

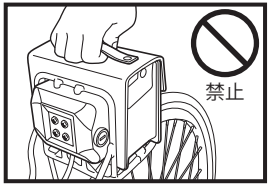
⚠注意

ロックを解除した状態ではキーを抜くことができません。

2. バッテリーを外します。

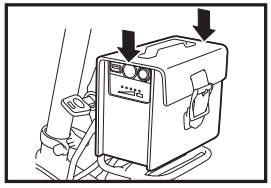
⚠注意



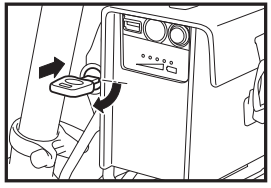


- **バッテリーを外す際は、イラストのように親指をバッテリーのステー側に掛け、その他の指をバッテリー底部で支えて、上にスライドするように外してください。**
- **レザーバッグの取っ手を掴んで持ち上げないでください。破損のおそれがあります。**

バッテリーの取り付け



1. バッテリーロックのキーを差し込み、ロックが解除された状態にします。
2. バッテリーを取り付けます。



3. キーを時計方向に回してロックし、キーを抜きます。

要点

- キーを抜いた後、バッテリーがロックされていることを確認してください。
- **走行時は必ずキーを抜いてください。**
- **キーを差し込んだまま走行すると、走行中の振動等によりキー又はバッテリーが脱落するおそれがあります。**

5.5　バッテリーの保管

バッテリーを車体から取り外し、直射日光が当たらない、乾燥した涼しい場所 10 ～ 21° C で保管してください。

保管時の補充電	**時間**
バッテリー保管前の補充電	4 時間
保管期間半年ごとの補充電	2 時間

※ 暖房器具の近くや自動車内など高温になる場所にバッテリーを放置しないでください。

- 本製品に長期間（1 週間以上）乗らない場合はバッテリーを車体から取り外してください。
- 走行後バッテリー残量が少ない状態で放置するとバッテリーにダメージを与える可能性があります。
  保管時には、満充電状態を保つ事で、より長くバッテリーの性能を維持する事ができます。
  充電を開始してもすぐに充電器が満充電表示になりバッテリーが使用出来ない場合、又は 8 時間以上充電しても満充電表示にならない場合は、バッテリーに何らかの異状が発生している可能性があります。
  正規販売店又は株式会社デイトナにお問い合わせください。

⚠注意

これらの充電に関する指示事項に従わないと、保証を受けられなくなります。

5.6　バッテリーの廃棄

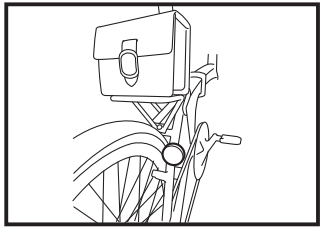
⚠注意

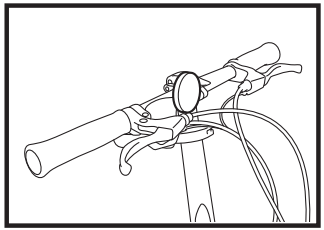
バッテリーを家庭ごみとして廃棄しないでください。

株式会社デイトナでは資源有効利用促進法に従いリチウムイオンバッテリーの回収、再資源化を推進しています。
本製品に付属のバッテリーをリサイクルする場合は正規販売店または株式会社デイトナにご依頼ください。

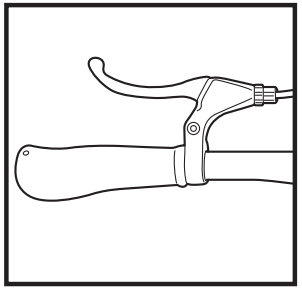
6.0　走行前の点検

毎回の走行前に、ブレーキ、タイヤを点検し、すべての重要な固定部分に緩みがないことを確認してください。





リフレクター 本製品にはリフレクターが装備されており、夜間の被視認性を高めています。毎回の走行前に、リフレクターが正しい向きで確実に取り付けられており、破損や汚れがないことを確認してください。



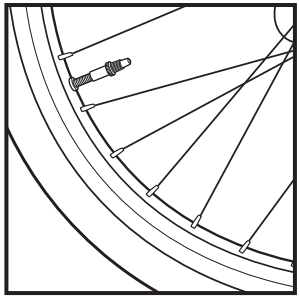
ブレーキ 毎回の走行前にブレーキを点検してください。右ブレーキレバーはフロントブレーキを、左ブレーキレバーはリアブレーキを作動させます。

ブレーキシュー及びリムのサイド面の点検 ブレーキを点検するときは、ブレーキ系統すべてを点検することが重要です。ブレーキシューは通常使用していても摩耗が進みます。ブレーキシューが限界まで摩耗する前に、正規販売店にブレーキシューの点検と交換を依頼してください。
ディスクブレーキ装着車はブレーキパッド及びブレーキディスクの摩耗状態を確認してください。

ペダル 毎回の走行前に、ペダルがしっかりと固定されていることを確認してください。

サドル 毎回の走行前に、サドルが適切に調整されていること、確実に固定されていることを確認してください（P20、21 参照）。

DE03（仏式バルブ）

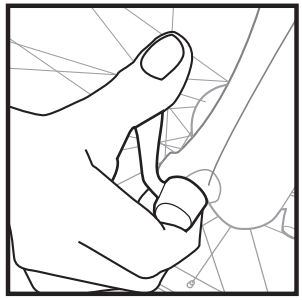


タイヤ空気圧 通常自転車のタイヤは時間とともに空気圧が低下します。
タイヤの空気圧が低いと、タイヤの摩耗が早期に起こる可能性があるとともにパンクのリスクも高まり、必要な推進エネルギー（電気的および人的エネルギー）も大幅に増加します。また、アシスト距離が大幅に短くなります。

適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。

要点

- バルブの仕様に合った空気入れを使用してください。
- バルブアダプターが付属されている車種は、バルブアダプターを使用することで英式タイプの空気入れを使用することができます。

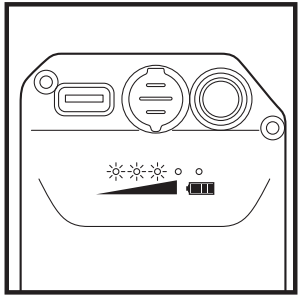


クイックリリース
車輪の脱着を容易に出来るクイックリリース機能を備えている車両はクイックリリースが正しく調整され、緩みがないことを確認してください。

⚠警告

クイックリリースが適切に調整されていない、またはロックされていない状態で走行しないでください。走行中に車輪が脱落し、死亡または重傷、物的損害に至るおそれがあります。

バッテリー 出発前にインジケータランプを確認して、バッテリーが走行予定に対して十分に充電されていることを確認してください。



本製品の組み立て、使用、お手入れに関して不明点がある場合は、正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

7.0　定期点検・整備

いつまでも安全にお乗りいただくために、定期点検・整備を実施してください。また変形、損傷のある部品を発見した場合や、異常を感じたときは、ただちに正規販売店で点検・整備を受けてください。

7.1　初回の点検・整備

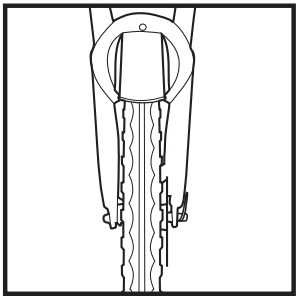
お買い上げ 1 ヶ月位のご使用で、各部にねじの緩みが発生する場合があります。必ず正規販売店で点検・整備を受けてください。

7.2　1 か月目以降（6 か月ごと）の点検・整備

本製品を安全にお乗りいただくために、6 か月に一度、正規販売店で点検、整備を受けてください。

⚠注意

指定された定期点検を受けていない場合、メーカーによる保証を受けられないことがあります。



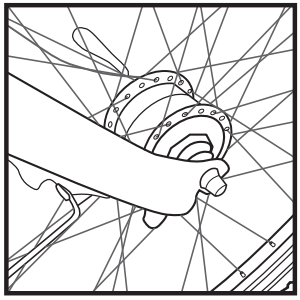
7.3　車輪

前後輪はフォークおよびフレームの中央になければなりません。スポークの張りとリムのアライメントについて定期的に点検を受けることを推奨します。車輪は上下または左右の振れなくスムーズに回転しなければなりません。

⚠警告

スポークが折れている、またはなくなっている場合は走行しないでください。死亡または重傷に至るおそれがあります。

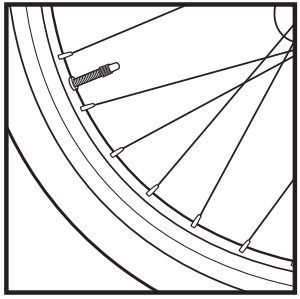
7.4　ハブベアリング

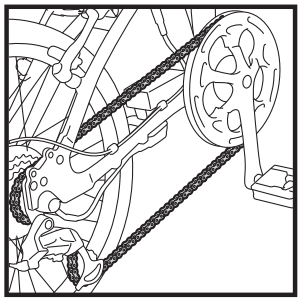


ハブベアリングの調整を定期的に点検してください。点検は、車輪を地面から持ち上げて回転させ、リムをフォークまたはフレームの間で横方向に押したとき、リムが横方向に動きがないことを確認してください。
前後いずれかの車輪で横方向の動きが認められた場合は、ハブベアリングを調整または交換してください。

7.5　リム

リムは平滑で、亀裂や膨れ、摩耗がない状態でなければなりません。必要な場合は、正規販売店に持ち込み、車輪の修理または交換を受けてください。





7.6　チェーン

チェーンは、定期的な清掃と自転車用チェーンオイルの注油が必要です。

7.7　ブレーキ

ケーブルに摩耗やほつれの兆候がないか点検してください。レバーを強く握り、ブレーキが正しく機能することを確認してください。
ブレーキシューおよびリムに、異物や油、グリスが付着していないことを確認してください。
ブレーキシューが限界まで摩耗する前に交換してください。
ブレーキシューに摩耗の兆候が見られる場合や、ブレーキの反応が以前と異なる場合は、正規販売店に点検を依頼してください。ブレーキワイヤーに不具合がある場合も効きが悪くなります。

⚠警告

雨天時の走行では、停止までの距離が長くなります。ゆっくりと走行し、他の交通との距離を十分にとり、普段よりも早めにブレーキをかけてください。このような注意を怠ると、事故などにより死亡または重傷、物的損害に至るおそれがあります。

あらゆる条件下でのブレーキの状況に何らかの不安がある場合は、正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

7.8　タイヤ

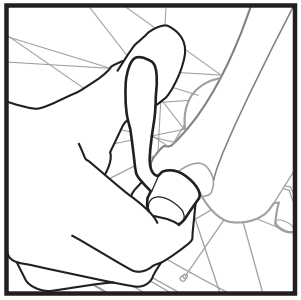
タイヤに損傷、亀裂、異常または過度の摩耗がないか点検してください。
タイヤはリムに適切に装着されていなければなりません。タイヤのビードがリムに正しくはまっていることを定期的に点検してください。
タイヤのトレッドに異物がないか点検し、リムのバルブがまっすぐであることを確認してください。
損傷、摩耗したタイヤは、すぐに交換する必要があります。本製品を正規販売店に持ち込み、修理または交換を依頼してください。
タイヤ交換を行う場合は、指定されたサイズのタイヤ以外装着しないでください。
交換部品をお求めの際は正規販売店又は株式会社デイトナにお問い合わせください。

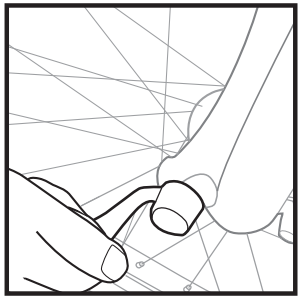
7.9　車輪の取り外しと取り付け

クイックリリースハブを装備している車両は、車輪の取り外しと取り付けが容易にできます。クイックリリース機構の説明に従い、正しく使用してください。

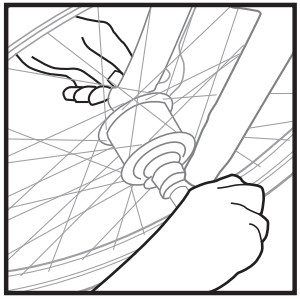
車輪の取り外し

1. クイックリリースレバーをハブから離れる方向に回して完全に開き、クイックリリースハブをゆるめます。



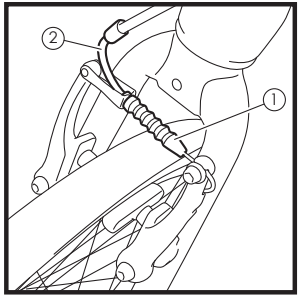


2. クイックリリースレバーの方向から見て、ハブの反対側にある調整ナットを、ナットとクイックリリースレバーがフォーク先端の脱落防止の出っ張りを越えるまで反時計回りに回します。

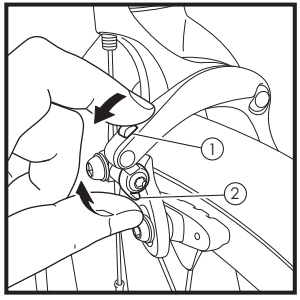


3. ブレーキの解放

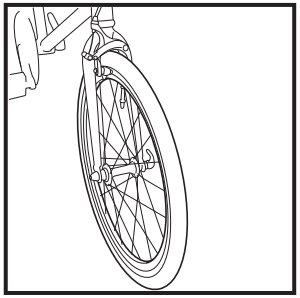
Vブレーキ装着車両
ゴムカバー①をずらし、ブレーキケーブル②を外します。



キャリパーブレーキ装着車両
上側のロックレバー①を外側に倒しながら、下側のロックレバー②を上に引き上げます。



4. 車輪を車体から取り外します。

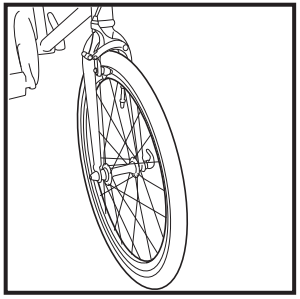


⚠警告

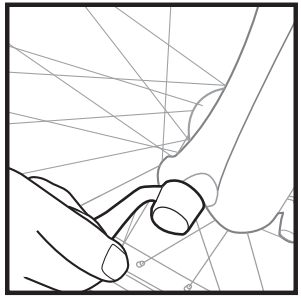
クイックリリースハブを不適切に取り付けると、走行中に車輪が脱落し、死亡または重傷、物的損害に至るおそれがあります。本製品の組み立てや調整に少しでも不安がある場合は、正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

車輪の取り付け

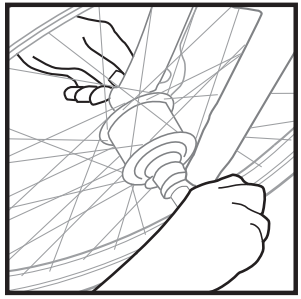
1. クイックリリースレバーがフロントフォークの左側になるように、車輪をフロントフォークの間に置きます。



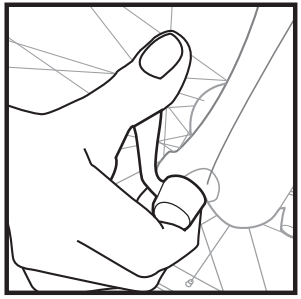
2. クイックリリースレバーを開いた状態（レバーの曲がりがハブから離れる方向になっている状態）にして、アクスルがフォークエンドの奥に入るように車輪をフロントフォークにセットします。



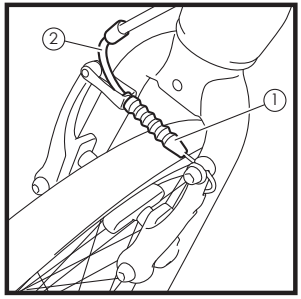
3. ハブの右側にある調整ナットを時計回りに回し、レバーを閉じるとき、レバーがハブの中心線と平行になる位置で抵抗を感じるようにします。



4. 左手でフォークをしっかりと握り、レバーが閉じるまでフロントフォーク側に押します。正しく調整されたレバーを閉じるために必要な力の目安は、手のひらにレバーの跡がつく程度が適切です。閉じた状態では、レバーの「OPEN」の表示が見えなくなります。十分な力で閉じられたレバーは、逆の手順で再び開かない限り簡単には開きません。簡単に開いてしまう場合は、レバーを開いて調整ナットを 180° 締め込み、レバーを閉じて確認してください。それでも正しく閉じられない場合は、さらに調整ナットを調整してください。



5. Vブレーキ装着車両はブレーキケーブル②を取付け、ゴムカバー①を元の位置に戻します。



キャリパーブレーキ装着車は左右のブレーキシューを掴んで、ロックレバーを下に倒します。

⚠注意

前後のブレーキが効くことを確認してください。

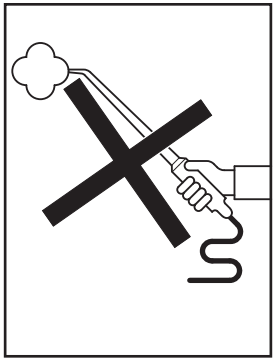
このブレーキのセットアップ・調整手順に不安がある場合は、本製品を正規販売店に持ち込みブレーキの調整を受けてください。
※ 後輪の脱着作業に関しては正規販売店にご依頼ください。

⚠警告

- 適切に調整されていないブレーキは、ブレーキ性能低下の原因となり、死亡または重傷、物的損害に至るおそれがあります。ブレーキの正しい機能を確信できない場合は、本製品に乗らないでください。
- クイックリリースレバーを確実に閉じ、レバーが突き出たままにしないでください。レバーが突き出たまま走行すると車輪が脱落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。
- ディスクブレーキ装着車の走行直後はブレーキディスクが高温になっている場合があります。火傷に注意してください。また、ブレーキディスクによる怪我等にも十分注意してください。また、ブレーキディスクに曲がり等が発生しないように注意してください。
  フロントホイール取付けの際は、ブレーキディスクがブレーキパッドの間に入っていることを確認してください。正規の位置に取り付けられないと作動しません。取付け後はブレーキレバーを握ってブレーキが 正常に作動していることを確認してください。

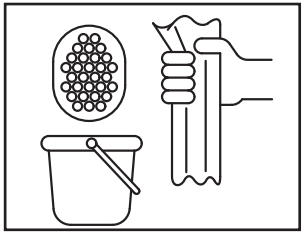
8.0 お手入れ

8.1 洗車



⚠注意

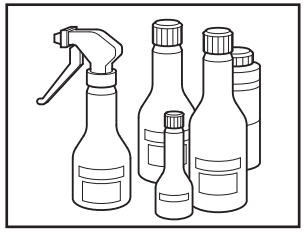
- ゴム部品およびプラスチック部品、合成皮革製品は、苛性洗剤や浸透性洗剤、溶剤を使用しないでください。部品が損傷するおそれがあります。
- スチーム洗浄機や高圧洗浄機は使用しないでください。そのような装置を使用すると、シールやバッテリー、電気系統が損傷するおそれがあります。
- 洗車後は走行前に必ずブレーキが効くことを確認してください。



本製品を洗うときは柔らかいスポンジときれいな水を使用してください。
洗車後はセーム皮などで水分を除去して完全に乾かしてください。

⚠注意

ペイントや被膜の傷を防止するために、ほこりや汚れを乾いた布で拭き取らないでください。



長距離走行後は、本製品をよく洗い、市販のワックスをベースとする防錆剤で部品を錆びから保護してください。

⚠注意

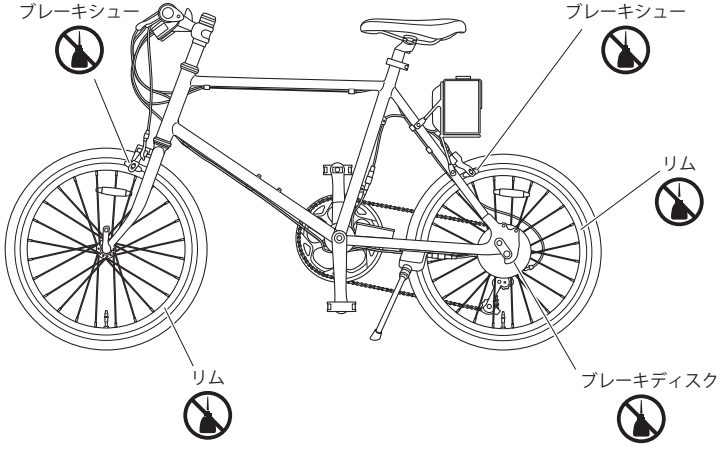
- プラスチック部品には絶対に塗装研磨剤を使用しないでください。
- 環境負担の小さい保護剤を適量のみ使用し、環境保護を心掛けてください。

⚠注意

- 冬季に本製品を使用すると、道路に撒かれている凍結防止剤などの塩分によって大きな損傷を受けるおそれあります。
- 塩分を除去するのに、温水は使用しないでください。塩分の影響を大きくするおそれがあります。塩分を除去するときは冷たい水で洗ってください。
- 本製品を完全に乾かして、ワックスをベースとする防錆剤で部品を錆びから保護してください。

8.2　注油箇所と注油禁止箇所

自転車用チェーンオイル又はグリスなどを使用してください。
注油は指定された箇所へ、定期的に少量注油してください。



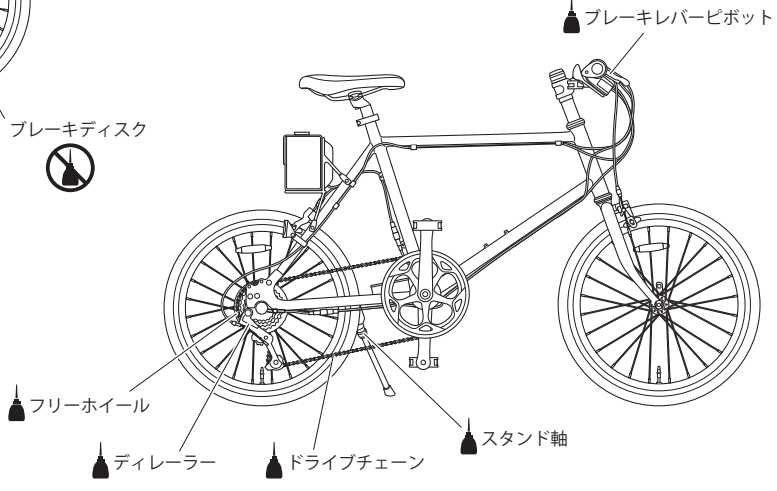
……注油箇所

……注油禁止箇所

※イラストは代表車種を使用しています。

⚠注意

- ブレーキディスクには注油しないでください。
- ブレーキシステムの洗浄は中性洗剤を使用してください。それ以外の洗剤や溶剤を使用すると油圧のシール材やブレーキパッドの変質につながり、正常な制動力が得られなくなる可能性があります。特にパーツクリーナーは使用しないでください。
- ブレーキパッドに油分が付いたり、連続したブレーキングにより高温状態が続くとブレーキシステムから音が出る事があります。その場合はブレーキパッドを新品に交換してください。



9.0　トラブルシューティング

本製品が正常に作動しない場合は、以下の解決方法を参照してください。問題が解消されないときは、正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせください。

症状	確認内容	対処方法	参考ページ
ペダルが重い アシストしない	メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	P25
	バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付け、キーがロックされている事を確認してください。	P35
	バッテリー残量は十分ですか？ 赤色 LED が点滅していませんか？	バッテリーを充電してください。	P31 ～ 32
	タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	P38
	メインスイッチの電源を入れてから、11分以上放置していませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	P25
	気温が高い所で使用していませんか？または走行負荷が大きい使い方をしていませんか？	バッテリーまたはモーターの温度が上がったための制御で、異常ではありません。温度が下がれば回復します。	–
	気温が低い所で使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。	–
	電源ボタンを押しても電源が入らない。	アシストシステム内部のトラブルが考えられます。使用を中止し、販売店で点検を受けてください。	–
走行距離が短い	十分に充電が行われていますか？	満充電になるまで充電してください。	P31 ～ 32
	バッテリーの劣化が考えられます。	販売店で点検をお受けください。必要に応じてバッテリーを交換してください。	P33、36
	タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	P38
	気温が低い所で使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。	–

症状	確認内容	対処方法	参考ページ
充電できない	電源コード、電源プラグ及びコネクタはしっかり接続されていますか？	もう一度接続をやりなおして充電してください。	P31 ～ 32
	使用されているコンセントに電気が来ていますか？	ブレーカーを確認し、他の家庭用機器などで電気が来ている事を確認してください。	–
	充電器の LED は正しく点灯していますか？	もう一度接続をやりなおして充電してください。	P31 ～ 32
	バッテリーの残量表示 LED が赤→緑の順に点滅していますか？	もう一度接続をやりなおして充電してください。	P31 ～ 32
	気温の低い所で充電されていませんか？	15 ～ 25℃の屋内で充電してください。	–
	満充電でないのに、充電器の緑色 LED が点灯する。	バッテリーの劣化が考えられます、販売店で点検をお受けください。必要に応じてバッテリーを交換してください。	P33 ～ 36
	8 時間以上充電しているのに満充電（緑色 LED 点灯）にならない。	バッテリーの劣化が考えられます、販売店で点検をお受けください。必要に応じてバッテリーを交換してください。	P33 ～ 36
異音・異臭あるいは煙がでる	アシストシステム、バッテリーから普段と異なる音や異臭、煙がでる。	使用を中止し、ただちにメインスイッチの電源を切り、販売店で点検を受けてください。	–
	充電器、バッテリーから普段と異なる音や異臭、煙がでる。	使用を中止し、ただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検を受けてください。	P31 ～ 34
充電器が熱い	手で触れることができる程度。	充電中は多少の熱（約 40 ～ 60℃）を持ちますが故障ではありません。	–
	手で触れることができないほど熱い。	使用を中止し、ただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検を受けてください。	P31 ～ 34

10.0 技術情報

車体仕様

・ 車体寸法、適応身長、車両重量、許容荷重、バッテリー仕様、充電器仕様等は別紙「車体仕様のご案内」に記載しています。

11.0 保証規定

1. 本製品の保証制度について。

1.1 お客様のお買い上げ頂いた本製品には、以下の保証がついています。

2. 保証期間について。

2.1 保証期間 1 年間のもの： バッテリー、コントローラー、モーター等の電気部品

2.2 保証期間 2 年間のもの： フレーム、フロントフォーク、シフター、ディレーラー等の機構部品

2.3 保証対象外のもの： 油脂類、チェーン、タイヤ、チューブ等のゴム製品、グリップ、ブレーキシュー、ワイヤー類

3. お客様にお守り頂く事項

3.1 本製品を安全に、末永くご使用いただくために以下の事項を必ずお守りください。お守り頂けない場合、保証修理を受けられない事があります。

3.1.1 取扱説明書（本書）の指示に従うこと。
3.1.2 運行前点検及び保守、整備を実施すること。
3.1.3 定期点検及び消耗品、油脂類の交換を指示通り行うこと。

4. 保証できない事項

4.1 次に示す事項は保証修理いたしません

4.1.1 経時変化あるいは使用損耗による不具合。
4.1.2 一般に品質、機能上影響のない軽微な感覚的現象。（音、振動、オイルのにじみ等）
4.1.3 地震、台風、水害などの天災、事故および火災に起因する不具合。
4.1.4 煤煙、薬品、鳥糞、塩害等に起因する不具合。
4.1.5 通常の注意で発見処置できたにもかかわらず、放置したことに起因する不具合。
4.1.6 本製品を改造したことによる不具合。
4.1.7 正規販売店以外で購入した車両。
4.1.8 オーナー登録を行っていない本製品への保証。

4.2 次に示す項目は保証に含まれません。

4.2.1 収入や所得、業務機会の損失。
4.2.2 予測される節約の損失。
4.2.3 データの損失。
4.2.4 時間的損失。
4.2.5 商品以外への保証。
4.2.6 車両を使用できなかったことによる不便さへの保証。

4.3 タイヤ、チューブ、ブレーキシュー、グリップ、油脂類などの消耗品は保証対象外となります。

5. 保証を受ける為の手続き。

5.1 万一本製品に不具合が発生した場合はできるだけ早く、正規販売店又は株式会社デイトナへお知らせください。正規販売店又は株式会社デイトナが不具合のある部品の確認を行い、不良品である事を確認した場合、保証に基づき以下の保証手配を致します。

5.1.1 不良品の交換。
5.1.2 不良品の修理。
5.1.3 不良品に対する一部又は全額の返金

6. オーナー登録及び保証書の発行

6.1 保証を受ける為に本製品を購入後 1 か月以内に付属のオーナー登録用紙に必要事項を記入し、オーナー登録を行ってください。

6.2 オーナー登録完了後 3 週間程度で株式会社デイトナよりお客様のもとへオーナー登録完了のご案内及び保証書が送付されます。保証書は保証修理を受けられる場合必要になりますので大切に保管してください。

12.0 オーナー登録

今すぐオーナー登録カードに必要事項を記入し株式会社デイトナまでご返送ください。保証を受けられるだけでなく、製品に関する今後の重要な情報を受け取ることができます。必ず登録をお願いします。

オーナー登録をされなかった場合、保証を受けられないことがあります。

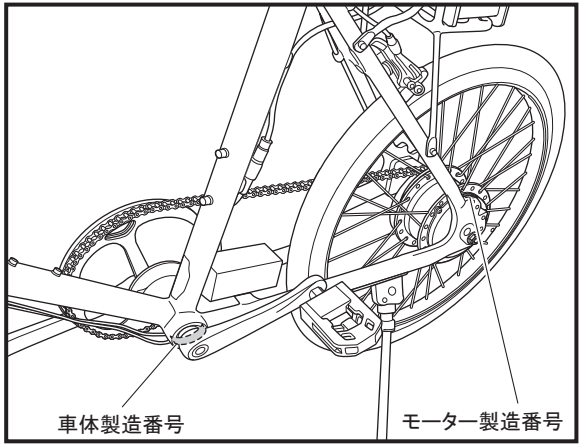
本製品および一部の重要部品には、固有の製造番号が与えられています。保証のためおよび紛失や盗難時に備えて、製造番号を記録しておいてください。

車体の製造番号はペダルクランク付近のフレーム裏側にあります。

車体製造番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

モーター製造番号はモーターハブの左側に刻印されています。

モーター製造番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿



その他、以下の重要な情報を記録しておいてください。

購入日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

販売店：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

販売担当者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

郵便番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

これらの情報は後で確認することができるように保管しておいてください。

本製品を盗難から守るためには、高品質な自転車ロックを使用してください。車両から離れるときはいつでも、動かない物に車体を固定し、前後輪をフレームにロックしてください。近年バッテリー単体での盗難が増加しています。バッテリーはなるべく取り外して保管することをお勧めします。

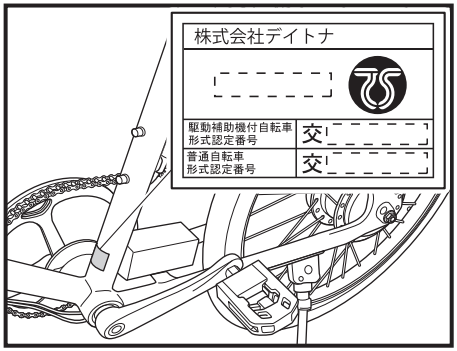
13.0 廃棄

本製品は、製品の適切な廃棄とリサイクルを支援しています。自転車や関連部品はお住まいの地域のリサイクル施設で処分してください。お近くの正規販売店または株式会社デイトナにお問い合わせいただければ、廃棄に関する情報をご提供いたします。

14.0 その他

防犯登録について
防犯登録は、法律で義務付けられています。お買い上げの正規販売店にご相談ください。登録には車体製造番号が必要です（P50参照）。

型式認定済標章（新車に貼付してある TS マーク）
このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるもので、安心して電動アシスト自転車としてご利用頂ける証明です。この TS マークには、保険は付帯していません。



普通自転車点検整備済み TS マークについて（新車には貼付されていません）
自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます（有償）。このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。詳しくは、お買い求めの正規販売店にご相談ください。

お住まいの地域によっては、任意保険への加入が義務付けられている場合がございます。



お知らせ

2020 年 6 月 30 日より改正道路交通法の施工に伴い
自転車運転中に危険なルール違反を繰り返すと『自転車運転者講習』を受ける事になります。

対象となる危険行為は
- 信号無視
- 遮断踏切立入り
- 指定場所一時不停止等
- 歩道走行時の通行方法違反
- 制動装置（ブレーキ）不良自転車運転
- 酒酔い運転
- 通行禁止違反
- 歩行者用道路における車両の義務違反（徐行違反）
- 通行区分違反
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 交差点安全進行義務違反等
- 交差点優先車妨害等
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 安全運転義務違反
- 妨害運転

ルールを守って安全に、楽しく自転車をご利用ください。

メモ

メモ

メモ

お問い合わせ先

株式会社デイトナ
静岡県周智郡森町一宮 4805
http://www.daytona.co.jp
お客様相談窓口
0120-60-4955

JP Edition 3.0
2023 年 8 月
© Daytona Corporation